資料１

第３回 米沢産業高校（仮称）教育基本計画策定委員会　記録（概要）

１　日　時　令和２年 11 月 25 日（水）14：00～15：30

２　会　場　あこや会館２０１会議室

３　参加者　委員長（座長）、委員８名（別途１名は事前に意見を聴取）

４　内　容

１　県教育委員会あいさつ
２　報告
(1) 第２回教育基本計画策定委員会の概要
(2) 学校視察（村山産業高校、酒田光陵高校）について
(3) その他
３　協議
(1) 基本理念（案）
(2) 開校予定年度と入学定員等（案）
(3) 設置課程・学科の目標及び教育課程（案）
(4) 移行期の対応（案）
(5) 施設整備計画（案）
(6) 開校に向けた準備組織及びスケジュール（案）
(7) その他

５　発言要旨

２　報告　　事務局長より説明

(1) 第２回教育基本計画策定委員会の概要

質問等なし。

(2) 学校視察（村山産業高校、酒田光陵高校）について

質問等なし。

(3) その他（意見聴取について）

質問等なし。

３　協議　　部会長より提案

(1) 基本理念（案）

（委　員）

基本理念から、育てる生徒像、目指す学校像、教育目標へと進むにつれて、基本理念が具体化されていく様子がよく分かるものとなっている。

（委　員）

よくまとめられており、特に３つ目の「持続可能な社会」は行政としても大きな課

題と認識しており、米沢市も新しい高校と連携して取り組んでいきたい。

（委　員）

基本理念から教育目標まで系統的につながっており、分かりやすい。

（委　員）

小学校や中学校においては、学校教育目標が学校教育の基盤となっており、それを踏まえて、育てる生徒像や学校像が示されている。一方、この教育基本計画では、基本理念があり、その後に育てる生徒像、目指す学校像、教育目標という形で構成されている。教育基本計画の基本理念は、開校にあたりどのように用いられるのか。

（事務局）

教育基本計画の基本理念を基にして来年度以降、開校整備委員会で具体的なプログラムを作成し、学校の特色づくりを行う。校長が教育基本計画の基本理念等を大切にしながら、学校経営的な観点も含め、教育目標を定めると考えている。

（委　員）

基本理念は、全日制、定時制共通のものであるが、育てる生徒像、目指す学校像、教育目標について、全日制と定時制でそれぞれ異なるものにしている理由を、簡潔でよいので記載する必要があるのではないか。このままでは、１つの学校であるのに、２つの学校があるような印象をもつ人も出てきてしまう。

（委　員）

昼間定時制に入学する生徒の姿を念頭に置き、育てる生徒像、目指す学校像、教育目標がつくられていることが伝わってくる内容となっている。

（委　員）

目指す学校像にある、社会とつながる実践的・協働的な学びという視点は、これからのまちづくりにおいても大切な観点であり、今後検討される実際の教育課程に反映させてほしい。

（委　員）

目指す学校像の内容が、学科の目標及び教育課程の部分で具体化され、しっかりつながっており、分かりやすい。ただし、全日制の目指す学校像の①ウについて、「チームで働く力」という表現は「協働する力」など他の表現でもいいと感じたが、敢えて「チームで働く力」を用いた理由は何か。

（事務局）

ウに示した「チームで働く力」を含む３つの力は、経済産業省が、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力として提唱した「社会人基礎力」を参考にした。全日制は専門学科であるため、社会人基礎力は特に育みたい資質・能力であり、重要な視点であると考えた。

（座　長）

読んだ方にとって、違和感のない表現が一番であるため、文言については再度検討してほしい。全体として、委員の方々から賛同が得られたので提案の通りとする。今後、文言の修正等がある場合には、次回の策定委員会に提案をお願いする。

(2) 開校予定年度と入学定員等（案）

質問意見等なし。原案の通り承認。

(3) 設置課程・学科の目標及び教育課程（案）

（委　員）

工業に関する学科の名称「機械創造科（仮称）」について、他の学科名と比較すると「創造」という言葉が他と違った印象を受ける。もう少し具体的な教育内容を盛り込んだ名称とするなどできないか。

（委　員）

工業に関する学科の「機械創造科（仮称）」について、大変工夫されており、思いが伝わる名称だと感じたが、他の学科の名称とのバランスを考えると確かに違和感がある。加えて、１０ページの全日制の教育課程の特徴に記載されている、総合選択制、専攻科について、一般の方から理解してもらうには、もっと丁寧な記述が必要と感じる。また、総合選択制は新しい学校において目玉になると感じているが、この程度の記載でいいのかということと、専攻科について、現在については、７ページに記載があるが、新しい学校においての扱いはどうなるのかについて説明が必要ではないかと感じた。

（委　員）

全日制の教育課程の特徴にある「地域や社会に参画する学び」の内容について、地域に参画し、活力を生み出すという観点はよいが、その観点だけでは内向きの印象を与えかねない。これからの生徒は、米沢市、置賜地区内で働いていても、海外と取引し、オンラインなども利用して、どんどんグローバルな舞台で活躍することになっていくと考えられる。地域から更に世界につながっていくイメージにできないか。

（委　員）

スマートフォンのアプリケーションを学習したり、新たなものを開発したいと考えたりした場合、工業科にある電気情報科、商業科のビジネス情報分野のどちらで学ぶことになるのか。

（部会長）

工業の分野においては、電気情報科になる。また、このようなアプリの開発においては、商業科の生徒がこういうアプリがあったらいいと考えて企画し、工業科の生徒が試作したものを、商業科の生徒が実際に使い、使いにくい点や改善点を指摘し、工業科の生徒が改良を加えるなど、工業と商業が連携・協働した教育活動が実践できるのではないかと考えている。

（委　員）

今後、アプリケーションの開発などソフトウェア業界を目指す生徒が多くなり、情報通信分野が産業の中心にもなると考えている。工業と商業の連携により両学科の長所を高められることが新高校の強みだと考えるため、是非このような連携を行ってほしい。また、定員は機械創造科（仮称）が８０名、電気情報科（仮称）が４０名あるのは、ソフトよりもハードの分野の方が求められる人材が多いということか。

（部会長）

そのように考えている。

（委　員）

これからも、ハード面のものづくりは大切な産業だと考えるが、ソフト面は、今後ますます重要となってくる。今後、社会で求められる人材に応じて、小学科の募集人数は柔軟に対応してほしい。

（委　員）

定時制の学科の目標に「ICT の活用」とあるが、様々な事情により学校に来ることが難しい生徒に対し、オンラインで授業を提供することも考えているのか。

（部会長）

現時点では、情報の収集や発信、AI を活用するなどして、個に応じた演習などの実施を想定している。

（委　員）

定時制の系列は「教養系列（仮称）」、「産業系列（仮称）」としているが、中学生にとって分かりやすく、イメージしやすいネーミングを検討していただきたい。また、「学び直し」の時間などがあり、非常に楽しみである。この２０分程度の学び直しの時間は、通常の授業の他に、別途時間をとるということか。

（事務局）

別途設ける予定である。庄内総合高校では、通常の授業は全日制の３時間目の時間から始め、午前２時間、午後２時間の授業であるが、授業開始前の２０分間学び直しを実施し、修得単位数に含める予定としている。

（委　員）

２０分の短い学習時間で、どのような効果が期待できるのか。

（事務局）

首都圏で学び直しを重視している学校からは、短い時間だからこそ、多くの生徒の集中が途切れないことや、その後の授業の導入として有効だとの報告がある。学習時間に関しては、全国的に様々な例がある。

（座　長）

全体的に反対意見はないようなので、原案の通りとさせていただく。なお、文言の修正、用語の説明、学科の名称等を含め、班会で検討し、次回提案をお願いする。

(4) 移行期の対応（案）

質問意見等なし。原案の通り承認。

(5) 施設整備計画（案）

（委　員）

令和７年度に両校が統合し、全日制、定時制の両課程が現米沢工業高校の校舎で学ぶことが可能であれば、定時制が現米沢商業高校の校舎へ移転せずに、令和８年度以降も現米沢工業高校の校舎で学ぶことが可能ではないのか。

（事務局）

定時制を独立校舎にする必要性については２点ある。一つは、令和８年度から昼間に移行するため、全日制と学習時間帯が重なり、体育館など施設の共用が難しくなること、もう一つは多様な生徒が入学してくることを考え、落ち着いた学習環境を提供したいということである。

（委　員）

令和８年度から、現米沢商業高校に使用されない校舎が出てくるということか。

（事務局）

築年数の浅い校舎を中心に、改修して使用することを想定しており、現在の校舎の全てを使用することにはならないだろう。ただ、一体化した学校経営の観点から、全

日制の部活動などで定時制の校舎を活用することも考えられる。これについては、今後、具体的に検討することになる。

（委　員）

統合後、米沢工業高校と米沢商業高校の校舎を行き来するため、公共交通機関が必要となると想定しているのか。現在、米沢市で地域公共交通計画の策定に向け協議しており、必要であれば両校間の移動について検討したい。

（事務局）

校舎の利用に関しては、今後の検討となるため、公共交通機関が必要となるかは現時点では未定である。

（委　員）

PC を使用する特別教室や専門的な教室をつくるなど大規模な改修になるのか。

（事務局）

全体の構造を大きく変えるというような大規模な改修を想定しているわけではないが、現米沢工業高校に商業の実習室等、商業教育に必要な教室を整備することは必要だ。詳細については現在検討中である。

（座　長）

これから教育課程を検討する中で、どのような形で工業と商業の学びを融合するかなどの検討が進めば、また新たな連携・協働が出てくることも考えられる。施設については、学びの内容と関連づけて検討していってほしい。

(6) 開校に向けた準備組織及びスケジュール（案）

質問意見等なし。原案の通り承認。

(7) その他

（委　員）

高校では校訓や校是が重要視されており、そこに学校が目指す姿が示されていると感じる。教育基本計画に校訓は盛り込まれるのか。それとも教育目標のように、校訓も学校経営の具体的なものとして位置づけられていくのか。

（事務局）

教育基本計画は、その学校の基本コンセプトや地域における普遍的な役割等を示したものであり、校長により変化するものではない。教育基本計画の基本理念を校訓としている学校もあるが、多くの高校の校訓は、これまで様々な背景の元でつくられてきている。校長が教育基本計画を踏まえ、学校経営の視点を加えながら校訓をつくるなど、必ずしも教育基本計画の基本理念がそのまま校訓となるわけではないと考えている。

資料２

米沢産業高校（仮称）教育基本計画（案）についての意見聴取の結果

１　目　　的

米沢産業高校（仮称）における教育の在り方について意見を聴取し、米沢産業高校（仮称）の開校準備に資する。

２　概　　要

(1) 対　　象　地域産業界、教育関係者等　５名
(2) 聴取期間　令和２年 12 月 16 日（水）～24 日（木）
(3) 聴取方法　高校改革推進室職員が、対象となる方を訪問し意見を伺う。

３　聴取事項

(1) 米沢産業高校（仮称）教育基本計画(案)について
(2) これから望まれる人材育成や教育内容（活動）について
(3) これから求められる望ましい地域との連携・協働について
(4) 米沢産業高校（仮称）に期待すること
(5) その他

４　聴 取 者

（敬称略）

No.	氏　　名	役　　職　　名	備考
1	小嶋　彌左衛門	株式会社小嶋総本店 代表取締役会長	地元産業界
2	佐野　恒平	佐野水産株式会社 代表取締役社長	
3	村田　菜美子	食菜工房タントグラッツェ 経営者	
4	小原　敏之	大原スポーツ公務員専門学校山形校長（元米沢商業高校長）	教育関係者
5	横戸　隆	日本教育公務員弘済会山形県支部参事（元米沢工業高校長）	

５　意見の概要

(1) 米沢産業高校（仮称）教育基本計画(案)について

① 全体について

○　これからの時代を踏まえた内容であると思う。
○　基本理念にある“実践的・協働的な学び”は観点としてよい。どう具現化するかが重要だ。
○　今後重要となる“社会人基礎力”の「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の観点も盛り込まれており、非常によい。今後、教育課程でどう具現化するかが重要だ。
○　人間性を向上させることは人づくり・人柄づくりであり、見えない教育課程が大切になる。その点で、部活動、特別活動、ボランティア活動などの視点が目指す学校像に盛り込まれておりよい。
○　基本理念に米沢・置賜地区の産業背景などがなく、米沢産業高校（仮称）ならではの必要性や役割が伝わってこない。

② 工業科・商業科について

○　商業科をマーケティング・マネジメント、会計、ビジネス情報の３つのコースに分けて学ぶことは賛成である。他の専門学科と比較すると学ぶ科目が多いが、選択して重点的に学ぶことにより、深い理解につながる。

○　「－スペシャリストへの道－職業教育の活性化方策に関する調査研究会議」(平成７年)が転換点となり、「完結教育」から「継続教育」に工業教育は転換している。「将来の」スペシャリストの育成のため、高校では基礎基本となる専門の知識・技術の習得を重視するとともに、習得した知識・技術を活用する力の育成が求められる。

○　米沢市は県内でも有数のものづくり企業の集積地であり、機械系を中心とした「ものづくり基盤技術分野」、建設、エネルギー分野を中心とした「社会基盤整備分野」、情報技術の進展に対応した「ICT 技術分野」が求められている。工業化学は有機 EL とつなげられるとおもしろい。

③ 定時制について

○　昼間定時制で総合学科という方針は、現在求められている多様な生徒の学びの場として、時代のニーズに対応しているといえる。

(2) これから望まれる教育内容（活動）や人材について

① 望まれる教育内容（活動）について

○　これからは「アイディアを形にできる人」が望まれる。ただし、課題研究などにおいて、ただ形にするだけで終わらないようにしないようにしなければならない。そのため「デザイン思考」を学ぶことが必要だ。課題を発見する力、把握する力や企画構成力を育成でき、課題研究が充実したものになる。

○　課題研究のような探究的な学習については、３年時に行うだけでなく、１、２年時から探究的な学習を積み上げられるようにしなければならない。また、テーマの設定にあたっては、「商業科」と一緒になった課題研究にも期待する。成果発表はオンライン等を活用し、企業等の外部に公開し評価をいただくことも、開かれた教育課程の取組みとして期待される。

○　モノを作っただけでは売れないので、必然的にマーケティングを学ぶ必要がある。その意味で商業科との統合はとてもよい。「モノを作る人」と「モノを売る人」が一緒に学ぶことの意義は大きく、この高校時代のつながりが将来事業を行う際に大きな意味を持つ。

○　商業は、生産者と消費者を結びつける重要な役割がある。県民の豊かさにつなげるために、ものづくりにおいても、マーケティングや原価計算など商業の感覚が必要である。

○　商業科で複式簿記を学べば、経済の動きをお金の出入りと財産の増減とで同時に見ることができ、経済の動きを二面性で捉えられる。

○　地元企業への就職だけでなく、山形大学工学部などの大学や専門学校への進学指導にも力を入れてほしい。その道のエキスパートを目指し、高等教育機関との連携を密にして、学校推薦型選抜等を有効に活用するなど、進学できる道をつくることが大切だ。また、専攻科からの大学編入できる仕組みづくりも必要だ。

○　STEAM 教育の観点からの課題研究の充実も大切だ。特に「A (Art、Liberal Arts)」の視点が大切になる。芸術、文化、歴史の視点がないと、なぜものをつくるかの考え方、意味づけが出てこない。一般教養の基盤となる普通科目も大切だ。

○　地域の歴史、文化について研修する機会も必要である。地元についての知識と理解を深めることで、地元愛を育み、地域を持続的に成長させられる有意義な学校になる。

○　系統的・体系的な学びについて、系統的は横のつながりを指し、体系的とは縦の積み上げを指している。体系的な学びを大切にしながらも、これからの社会を考えると、系統的な横の広がりを重視した学びにする必要がある。

○　生徒に将来の仕事や人生について考え、やりたいことを見つけられる「きっかけ」を作るのが、大人や教育の役割である。

○　学校の特色の一つとして、部活や課外活動に力を入れることも考えられる。身体、精神力、忍耐力、協調性の育成を図るとともに、競技での成績向上を目指して欲しい。

② 望まれる人材について

○　変化の激しい時代に対応するために、自己成長できる人材を育成する必要がある。そのために、高校で小さな成功体験を積み重ねさせることが大切になる。資格取得などに取り組むことにより、やればできる経験を積むことが可能となり、その成功体験が無形の財産となり、社会人になってから役に立つ。

○　高校生につけてほしい力は、先を読む力と、チームワーク力である。前者は、他人から指示されなくても先を見て行動することであり、後者は自分と他の人と話し合いながら協力することであり、そこにはコミュニケーション力も必要である。

○　かつての読み・書き・そろばんのように、基礎学力をこれからも重視すべきだ。読み取れる力、計算力に加え、現在は英語力も必要になる。また、コミュニケーション能力も大切だ。

○　その道のプロとして、技を極めた職人技の伝授という観点もこれからは必要になる。職人が減少しており、大工、左官などの専門技術を伝え残していくことは、行政が対応すべきことである。ニーズが大きくなくとも、競合がなければ成り立つ。金沢市では社団法人「金沢職人大学校」を設立し、技術を持続的に継承する取り組みをしており、大いに参考になる。

(3) これから求められる望ましい地域との連携・協働について

① 企業、高等教育機関との連携

○　企業、大学、専攻科との連携も大切だ。これまで行ってきたインターンシップから踏み込み、学校の理念を保護者、企業、大学と共有して、協働した学びを行って欲しい。教員が全て準備を行うのではなく、商工会、経済団体等と連携し、コーディネートしてもらうことが大切。そのような連携の在り方が今後必要となってくる。

○　専門学校や大学等の地域の教育力を活用することが必要であるが、学校で全てを抱え込むことには無理があるため、教員はそのコーディネーターとして、外部と連携することが必要である。加えて、実学を教える教員も自己成長することが必要であり、教員自身も自己研鑽できる仕組み作りも必要となる。

○　地元の企業との交流が必要だと考える。企業の技術者が高校で教育指導にあたったり、生徒が企業の現場で研修したりできればよい。継続的な連携によって、現在行っているインターンシップより深いつながりを形成することができ、生徒にとって有益だ。

○　会社を経営している人間、特に我々のように日々悩みながらも仲間や他業種と協力して活動している若手にとっては、高校生の考えに触れたり、一緒に活動したりすることは大いに意味があることだと考えている。連携することが高校にとってもメリットがあるとすれば、両者の連携を更に深めていくべきだ。

○　課題研究発表会などの学校の学習活動を、企業や地域の人々が知る機会があるとよい。生徒を採用する企業や地域の人間は、親でもない限り高校の教育内容について知る機会がない。企業や地域の人々は、高校について知りたいと思っているし、知ることはこちら側にも大いにメリットがある。高校生は大人にはない新しい考えを思いつく。

○　SDGs の考え方は今後、工業技術者のみならず一般の人であっても必要となるが、教員が教えるより、企業と連携し、その企業の活動から学ぶ方が有効だ。SDGs は現在、企業が積極的に取り組んでいる CSR（企業の社会的責任）につながっており、実践的に学ぶことができる。

② 地域との連携

○　地域課題など答えがない問いに取り組み、納得解を導き出すことも大切だ。米沢産業高校（仮称）のミッションは、地域を支える人材の育成にあると考えている。生徒の荒削りのアイディアは地域おこしに貢献できるだろうし、地域を知ることで地域への愛着心が芽生え、仮に進学などで地域外へ出ても、将来戻ってくる原動力になる。

○　地域の催事への参加や協力を通して、地域との交流を図ることが必要だ。

○　今以上に地域と関わっていく学校になることを期待する。

③ その他

○　モノを作り売るには、今や地域のパイを広げることはできないのでグローバル的な視点が必要だ。その意味でも、県内外の最先端で活躍している人を「先生」として招くことなども考えてほしい。

(4) 米沢産業高校（仮称）に期待すること

① 地域産業の人材育成

○　これからの地域産業界（工業・商業）を担い、リードする人材を育成することを期待している。

○　現場で仕事をする人材の育成が、この高校の大きな役割だと考える。経理事務、経営分析、マーケティング、製造業での技術職等の実務をこなせる人だけでなく、スペシャリストの育成も必要である。八幡原中核工業団地にある企業の経営者からは、米沢工業高校の卒業生は非常に優秀と話を聞いている。

② その他

○　新しい高校は、工業科と商業科が単に統合しただけの学校ではなく、「統合してよかった」と言える魅力的なものにしてほしい。学科構成や学ぶ内容は、第一に子供たちの希望を反映させたものでなくてはならない。子供たちが楽しいと思える学びを提供してほしい。同時に、地域の産業界の意見を反映させる必要もあると思う。

○　「地域の生徒が学びたい、保護者が入れたい」「企業でぜひ欲しい」と言われる学校を期待している。

○　現代社会は実践するだけでなく発信力が求められる。現在の米沢工業高校と米沢商業高校の魅力が十分に発信されているとは言い難い。工業科・商業科の魅力や日本一の何かがあればそれを発信する力を新しい学校には求めたい。

○　「教えるとは共に夢を語り合うこと。学ぶとは誠実（感動）を胸に刻むこと。」（ルイ・アラゴン）が学校全体で行える学校であってほしい。

(5) その他

○　少子化だから統合は仕方がない。学校規模が小さくなると学校が楽しい場所でなくなる。

○　高校の魅力を高めるために、県内でも置賜地区にしかない学科を作ってはいかがか。例えば、デザインを専門に学べる学科など。

資料３

米沢産業高校（仮称）定時制の教育活動のイメージ（案）

１　教育活動のイメージ作成に係る諸条件の整理

(1)　ＪＲの米沢駅、南米沢駅の発着時刻

○米沢駅着	上り	… 7:57、8:30、9:06、10:21、11:55、13:04
	下り	… 8:00、8:51、13:38
○南米沢駅着	上り	… 7:23、8:31、9:14、9:50、11:26
○米沢駅発	上り	… 13:08、17:44、18:42
	下り	… 13:40、14:38、15:28、16:27、17:29、18:40
○南米沢駅発	下り	… 12:20、14:53、16:20、18:36

(2)　教育活動の時間

○全員対象の授業…45 分×４時間

○選択制（三修制希望者用）の授業…45 分×２時間（２、３年次に週３日の方向）

○ＳＨＲ…10 分　　○学び直しの時間…20 分（毎日）

○清掃…15 分　　○昼休み（昼食）…45 分

２　授業時間帯のイメージ、長所・短所の比較

(1)　授業時間帯のイメージ（●：全員対象の授業、▲：選択制（三修制希望者用）の授業）

授業時間（例）	1 9:15～10:00	2 10:05～10:50	3 10:55～11:40	4 11:45～12:30	昼 12:30～13:15	5 13:15～14:00	6 14:05～14:50	7 14:55～15:40	8 15:45～16:30	SHR開始	学び直し開始
パターン1	●	●	●	●		▲	▲			8:40	8:50
パターン2	▲	▲	●	●		●	●			10:20	10:30
パターン3			●	●		●	●	▲	▲	10:20	10:30
パターン4			▲	▲		●	●	●	●	13:00	13:10

※パターン２：２校時と３校時の間に SHR と学び直しの時間が入るため、8：40 頃開始となる。
※パターン４：午後の授業開始は 13:35 頃になり、午後の授業は 20 分程度後ろにずれる。

(2)　各パターンの比較（◎→○→△で比較）

定時制の授業の時間帯については

・東南置賜地区の県立高校再編整備計画に基づいているか
・教育基本計画の実現に向けて適しているか
・これまでの議論（策定委員会、作業部会）の積み重ねに基づいているか

の観点で、次の視点を整理し、パターン１～４を比較した。

【検討の視点】

視点① 社会的に自立した生徒の育成
視点② 多様な入学動機等を持つ生徒への支援体制の充実
視点③ 地域と連携した体験的な学習活動の充実
視点④ その他（就業等が行える時間帯か 等）

【比較】（ ◎ → ○ → △ ）

	パターン１	パターン２	パターン３	パターン４
授業	全員対象：１～４校時 選択制：５、６校時	全員対象：３～６校時 選択制：１、２校時	全員対象：３～６校時 選択制：７、８校時	全員対象：５～８校時 選択制：３、４校時
視点①	○ ・社会的自立に必要な多彩な学習活動（学校行事等含む）は支障なし。 ・放課後活動（個別指導、部活動等）を実施する場合、昼をまたいで午後になる。	◎ ・社会的自立に必要な多彩な学習活動（学校行事等含む）は支障なし。 ・放課後活動（個別指導、部活動等）は全日制並みの時間が可能。	◎ ・社会的自立に必要な多彩な学習活動（学校行事等含む）は支障なし。 ・放課後活動（個別指導、部活動等）は、三修制の授業がない日を中心に実施。	○ ・社会的自立に必要な多彩な学習活動（学校行事等含む）は支障なし。 ・放課後活動（個別指導、部活動等）は、他より短時間になることが想定される。
視点②	△ ・登校時間が全日制と重なる。 ・登校時間は全員共通。 ・個別指導は、三修制と四修制を分けて実施可能だが、四修制の生徒は昼をまたぐ。	○ ・登校時間が全日制と異なる。 ・四修制の登校時間が選択授業の時間と重なる。 ・個別指導は、放課後にまとまった時間で実施。	◎ ・登校時間が全日制と異なる。 ・登校時間は全員共通。 ・個別指導は、三修制と四修制を分けて実施。	△ ・登校時間が全日制と異なる。 ・四修制の登校時間が選択授業の時間や昼休みと重なる。 ・個別指導は、放課後の時間が短いことも想定される。
視点③	○ 午前に全員４時間確保可能。午後は三修制希望者のみ。	◎ 午前、午後にわたり全員が参加可能。	◎ 午前、午後にわたり全員が参加可能。	○ 午後に全員４時間確保可能。午前は三修制希望者のみ。
視点④	◎ 午後の時間を広く就業等に使うことができる。	○ 四修制の生徒は 15 時以降に就業等が可能になる。	○ 四修制の生徒は 15 時以降に就業等が可能になる。	○ 午前中を就業等に使うことが可能である。

(3) 提案

以上の比較の結果を基に、**パターン３を軸に学習時間帯を設定すること**を提案する。
なお、より詳細な内容については、開校整備委員会で引き続き検討したい。

資料４

第３回教育基本計画策定委員会 課題の整理とその対応

１ 基本理念

課　題	① 全日制と定時制で基本理念は共通であるが、育てる生徒像からそれぞれ異なるものにしている理由を記載する必要がある。（１ページ） ② 全日制の目指す学校像①ウについて、「チームで働く力」は「協働する力」でもいいのではないか。（４ページ）
対　応	① 説明を記載した。 ② 「チームで働く力」は、職場や地域社会で多様な人々と仕事していくために必要な基礎的な力として経済産業省が提唱した「社会人基礎力」にある。「チーム」には、集団が試行錯誤の中、対立や衝突が起こり、すりあわせをするグループの段階を経て、自律や帰属意識をもつチームに変わるという考えが込められており、意見聴取においても、今後必要とされる力であるという意見があったため、そのままとしたが、用語解説に説明を加えた。

２ 設置課程・学科の目標及び教育課程

課　題	③ 全日制の学科名「機械創造科（仮称）」について、他の学科名とのバランスの面で違った印象を受ける。（８ページ） ④ 総合選択制についての記載は増やさなくてよいのか。（10 ページ） ⑤ 専攻科について、現在について記載があるが、新しい学校においての扱いはどうなるかの説明が必要ではないか。（10 ページ） ⑥ 全日制の教育課程の特徴イについて、地域に参画し活力を生み出すという観点はいいが、グローバルに広がるイメージにできないか。（11 ページ） ⑦ 定時制の教育課程の特徴アの系列について、中学生にも分かりやすく、イメージしやすいネーミングにしてほしい。（12 ページ）
対　応	③ 教育計画班で検討し、他の学科とのバランスを考え、教育内容を盛り込んだ「機械制御科（仮称）」とした。 ④ 内容がより伝わるよう、用語解説において説明を加えた。 ⑤ 専攻科については、高等教育機関として連携することなどを記載している。なお、専攻科の目的などが分かるよう、用語解説において説明を加えた。 ⑥ 教育計画班で検討し、「地域から世界へ目を向けるなど」に修正した。また、項目の順番も入れ替えた。 ⑦ 定時制班会で検討し、教養系列を「教養深化系列」、産業系列を「ものづくり・ビジネス系列」と具体的で分かりやすいものに変更した。

３ その他

第３回策定委員会において、定時制の教育課程の特徴の「ウ 教育活動のイメージ」については検討中としていた。
→ 定時制班会で検討し（資料３）、内容を 13 ページに記載した。